



再処理工場など 原子燃料サイクル施設周辺の環境放射線等調査結果

2022年
4月～6月

青森県と日本原燃は、当社施設が周りの環境に影響を与えていないことを確認するため、環境放射線等の調査を行っています。

調査結果 これまでと同じ水準であり、当社施設からの影響は認められませんでした。

調査のながれ



評価・確認

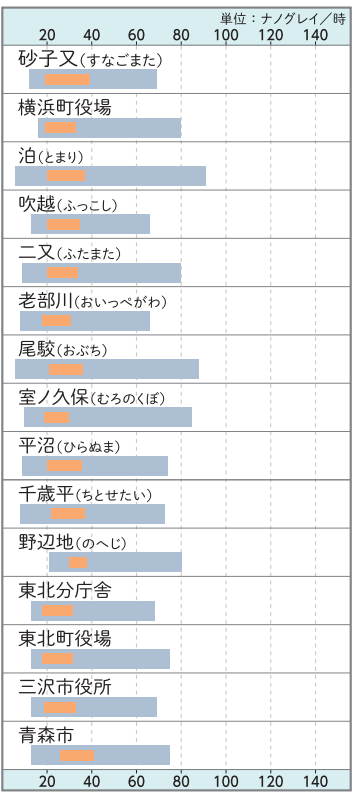
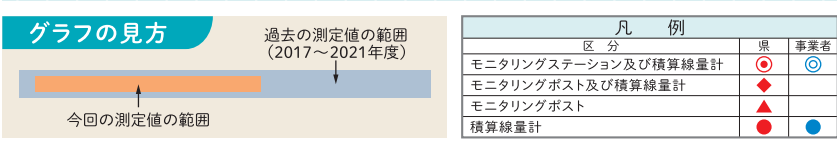


公表



1 空間放射線 (2022年4月～6月)

各地点の測定結果は以下のとおりです。全ての地点で、過去の測定値の範囲を上回る値は測定されませんでした。



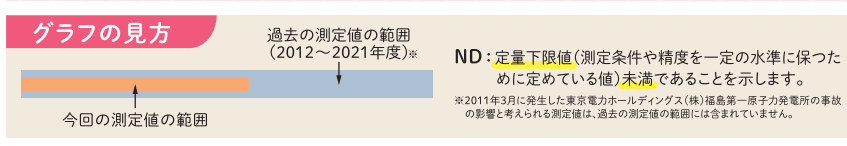
放射線と放射能の単位

- ベクレル(Bq): 放射能(放射線を出す能力)の強さを表す単位
- グレイ(Gy): 物質が吸収した放射線の量を表す単位
- シーベルト(Sv): 放射線の人体への影響を表す単位

《参考》
ミリ(m).....1,000分の1
マイクロ(μ).....100万分の1
ナノ(n).....10億分の1

2 環境試料中の放射能 (2022年4月～6月)

各試料の測定結果は以下のとおりです。全ての試料で、過去の測定値の範囲を上回る値は測定されませんでした。



試料の種類	0.0001	0.001	0.01	0.1	1	10	100	400	単位
六ヶ所村および周辺地域 大気浮遊じん ↳大気中のちりやほこり	セシウム-137	ND							
	ストロンチウム-90	ND							ミリベクレル/立方メートル
	プルトニウム-238	ND							
	プルトニウム-239+240	ND							
	ウラン	ND							
六ヶ所村および周辺地域 陸水 (河川水 湖沼水 水道水 井戸水)	セシウム-137	ND							ミリベクレル/リットル
	トリチウム	ND							ベクレル/リットル
	ストロンチウム-90	ND							※湖沼水は除く
	ストロンチウム-90	ND							※湖沼水のみ
	プルトニウム-238	ND							ミリベクレル/リットル
六ヶ所村および周辺地域 牛乳(原乳)	プルトニウム-239+240	ND							
	ウラン	ND							
	フッ素	ND							ミリグラム/リットル
	セシウム-137	ND							
	炭素-14	ND							ベクレル/リットル
六ヶ所村および周辺地域 松葉	ストロンチウム-90	ND							
	ウラン	ND							
	フッ素	ND							ミリグラム/リットル
	セシウム-137	ND							ベクレル/キログラム生
	ウラン	ND							
青森市 大気浮遊じん ↳大気中のちりやほこり	セシウム-137	ND							
	ストロンチウム-90	ND							
	プルトニウム-238	ND							ミリベクレル/立方メートル
	プルトニウム-239+240	ND							
	ウラン	ND							
青森市 松葉	セシウム-137	ND							ベクレル/キログラム生
	ウラン	ND							
	セシウム-137	ND							

試料の種類	0.0001	0.001	0.01	0.1	1	10	100	400	単位
青森市 大気浮遊じん ↳大気中のちりやほこり	セシウム-137	ND							
	ストロンチウム-90	ND							
	プルトニウム-238	ND							ミリベクレル/立方メートル
	プルトニウム-239+240	ND							
	ウラン	ND							
青森市 松葉	セシウム-137	ND							ベクレル/キログラム生
	ウラン	ND							
	セシウム-137	ND							

すべての調査結果は、青森県のホームページからご確認いただけます。 [青森県の原子力安全対策](#) [検索](#)

日本原燃からのお知らせ

再処理工場は、「2024年度上期のできるだけ早期」のしゅん工を目指します。

当社事業は地域の皆さまの支えがあって成り立っていることを忘れず、一日も早いしゅん工を目指して、安全を最優先に、引き続き全力で取り組んでまいります。



当社は、2022年度上期の再処理工場のしゅん工に向けて取り組んでまいりましたが、設工認*審査および安全性向上対策工事が継続していたことから、2022年9月にしゅん工時期を見直すこととしました。その後、審査遅延の原因を中心に、「工事」「設工認審査」「検査」の3つの観点から検討を重ね、「再処理工場のしゅん工時期を「2024年度上期のできるだけ早期」としました。

※設工認:安全性向上対策工事に必要な設計および工事計画の認可

【しゅん工時期】
変更前 2022年度上期 → 変更後 2024年度上期のできるだけ早期

- 【しゅん工までの進め方】
- 工事**
 - 安全性向上対策の主要な工事は、2022年内に概ね完了しました。
 - 新設設備の既設設備への連結工事等は、設工認の認可後からしゅん工までに実施します。
 - 設工認審査**
 - 第1回設工認審査は、2022年12月21日に認可をいただきました。
 - 最終となる第2回設工認の申請は、2022年12月26日に一括して申請しました。
 - 第2回設工認は、設備機器を類型化したうえで、代表設備を用いて説明を行います。また、「地盤・耐震」「設計基準対象設備」「重大事故等対処設備」の3つに分け、並行して説明する計画です。
 - これらを踏まえ、審査期間を全体で「1年程度」と設定しました。
 - 検査**
 - 設工認の認可後に実施する検査期間は、使用前事業者検査および、国による使用前確認を考慮して設定。さらに、使用前確認の期間が当社想定を上回る可能性も考慮し、検査期間に幅を持たせることとしました。
 - これらを踏まえ、設工認の認可後の検査期間を「4～7ヶ月程度」と設定しました。